

PAGES CHAIR

Pipe Arm

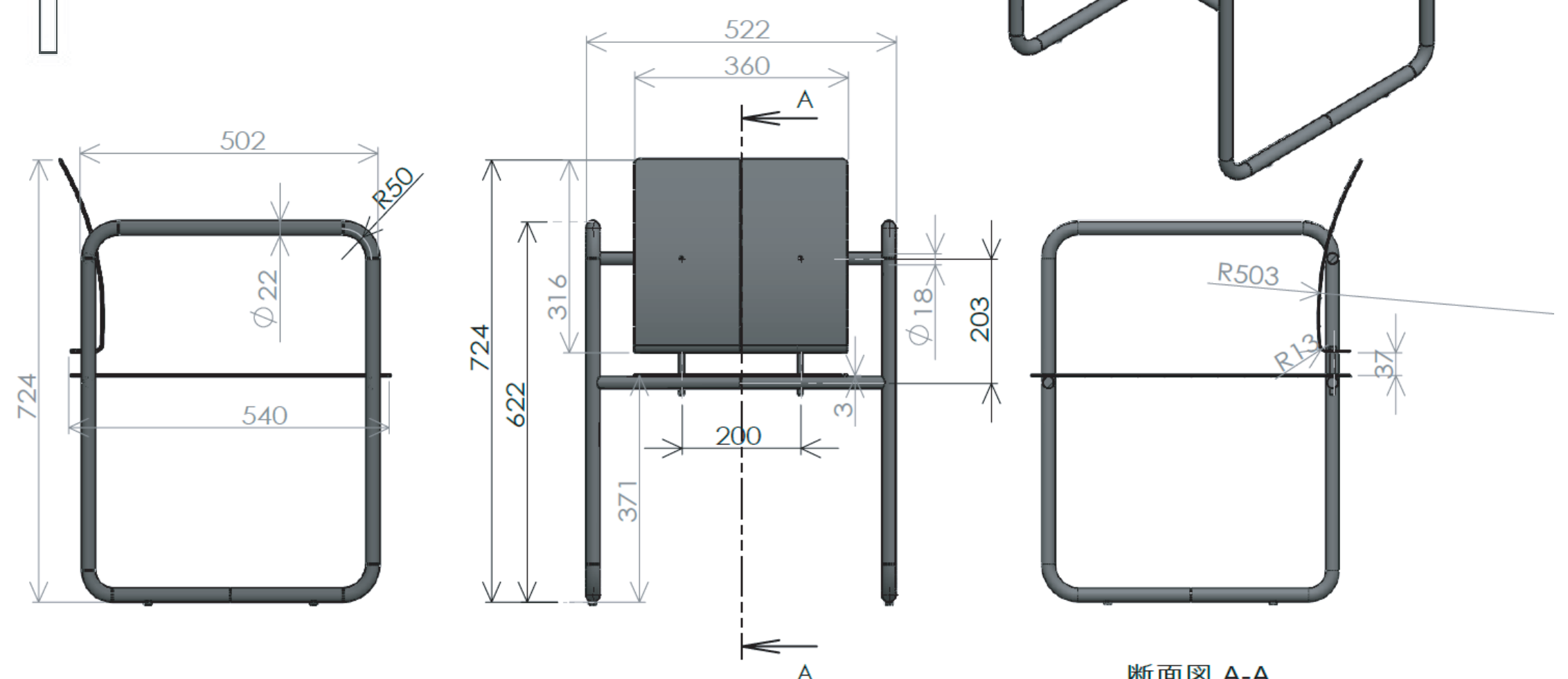
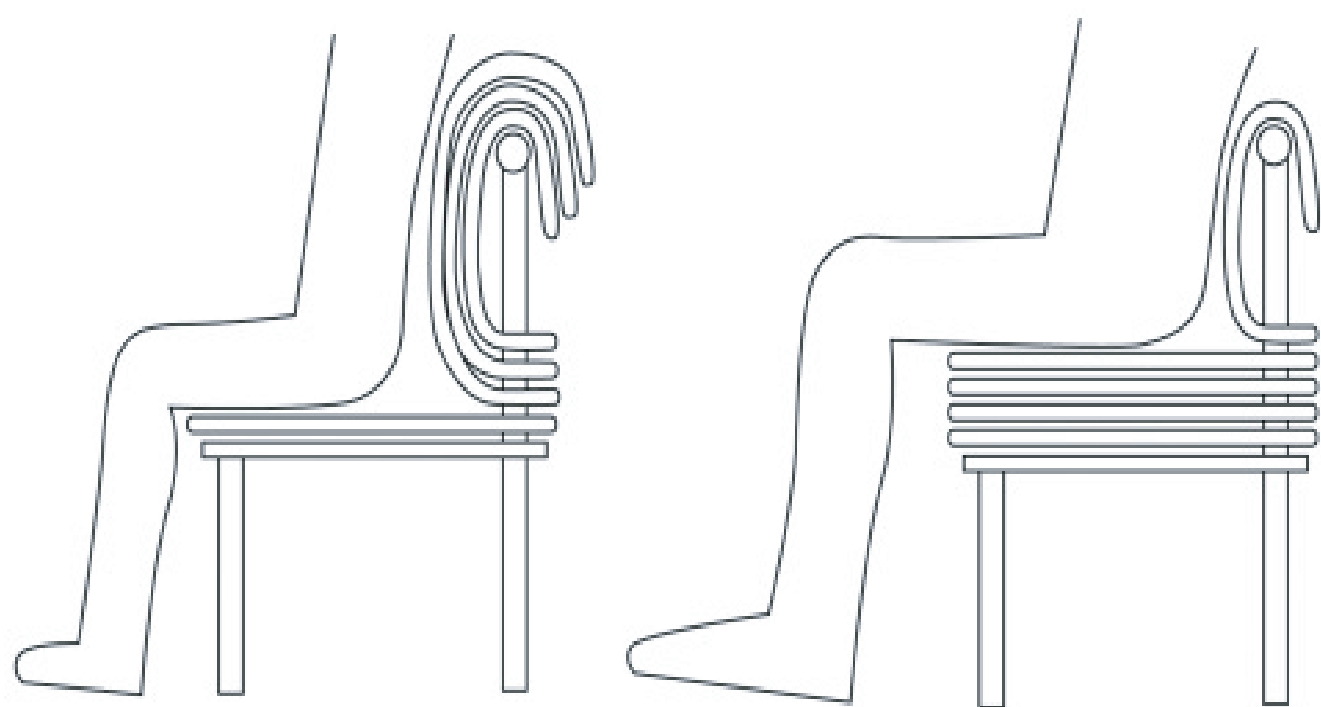
PAGES CHAIR のコンセプトは、「座面シートを本のようにめくり、色柄を変えて楽しむと同時に、座面の高さを手軽に調整できるエモーショナル&インクルシブデザインチェア」である。

発想のものは、インテリアショップにあるテキスタイルの色見本。張地が冊子状になったもので、こんな風にめくるだけで椅子の生地が変えられたらと思った。通常の椅子は生地が固定されていて、簡単に変えられない。固定されていることは常識で、耐久性や座りやすさのために必要である。だが、自分の気分に合わせて、手軽に色や柄を変えられる椅子があったら生活がぐんと楽しくなるのではと考えた。この椅子の座面シートは、めくって背もたれの横棒に掛けることで、背もたれのクッションとなる。裏も表となる。布をめくることで座面の高さを変え、同時に背もたれに掛けた布は座面の奥行も変えて、体型に合わせた背もたれの厚みとなる。

複雑な機構を持たずとも、シンプルな機構で体格に合わせられる椅子の構造を確立した。こうして、人の感情に訴えかけるエモーショナルな要素と、座の高さと背もたれの厚さを変えられる、インクルーシブな要素を併せ持った、椅子の案が固まった。

PAGES CHAIR の座面シートは簡単に交換することが可能となっている。汚れがついた時もすぐに外すことができる。また、シンプルな形状でユーザーが自分好きな布でシートを作成することもできるので布の廃棄問題に貢献できる。やはり一番の魅力は、ユーザー参加の要素をデザインに取り入れることで家具と所有者の関係性をより深めることができることである。このことは、家具を長く使い続けることとなる、サステナブルデザインに繋がるのではないかと考える。2012年に木製の PAGES CHAIR (MIDDLE) を製作してから、国内外の見本市に出展し、2016年イタリアの A design award を受賞。その後、改良を重ねてきた。

今回の応募作品は PAGES CHAIR のコンセプトを引き継ぎ、金属パイプ使用してデザインしたもの。パイプ椅子にすることによりスマートさと堅牢性を確保。背もたれ面を固定するボルトの穴と兼用することで座面布の穴を小さくでき、コストダウンできた。



断面図 A-A
スケール 1 : 10